

稲作情報 第8号

令和 7年 8月 8日
射水市農業技術者協議会

- ・ 高温の影響で、生育ステージが早回っています。
- ・ 適切な水管理で稲体の活力を維持し、適期刈取り、ゆっくり乾燥で、白未熟粒や胴割米の発生を防ぎましょう。

表 管内調査圃の成熟期予測

品種	田植日	出穂期	成熟期※
てんたかく	5月2日	7月13日	8月15～16日頃
コシヒカリ	5月12日	7月31日	9月5～6日頃

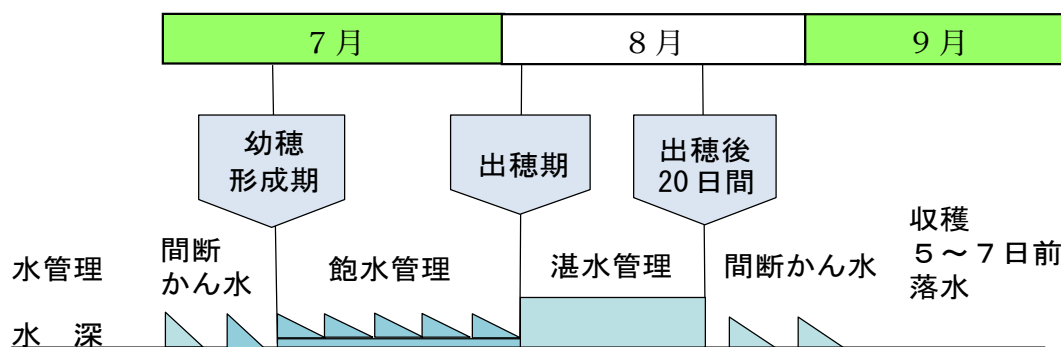
※成熟期は、8月5日以降の気温が「平年+1℃(高温予想のため)」で推移した場合で予測

1 水管理

- ・ 出穂から 20 日間は湛水管理を行う。
(高温日が続く場合は2～3日で水の入れ替えを行う。)
- ・ その後は、収穫の5～7日前まで間断かん水を行う。
- ・ フェーン現象等で高温が予想される時は事前に入水する。

湛水管理の効果
・ 稲体温度の低下
・ 葉色の維持
・ 品質、登熟の向上

<水管理のイメージ>



2 適期刈取り

- ・ 登熟期間が高温で推移していることから、「てんたかく」は籾黄化率 80% (積算気温 900℃程度) から刈り始める。
- ・ 「コシヒカリ」は籾黄化率 85% (積算気温 1000℃程度) から刈り始める。

※収穫期間が長くなる経営体は籾黄化率 80%から刈取を実施

- ・ 刈り遅れると胴割米が発生しやすくなるので注意する(特に「富富富」)。
- ・ 「新大正糯」は、穂発芽しやすいので、適期刈りに配慮する。

収穫の 5～7 日前まで間断かん水を行うと、胴割米の発生が軽減される。

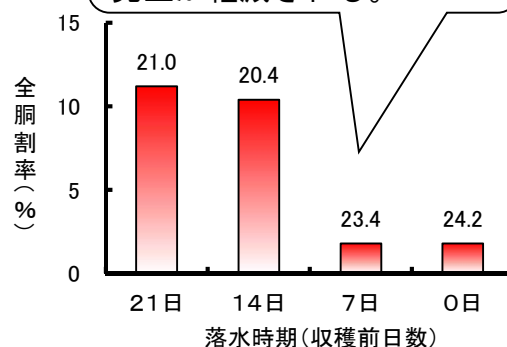


図 落水時期と立毛胴割れの関係 (農研)

3 乾燥

- ・ヤケ米の発生防止のため、生粳は、収穫後4時間以上放置しない。
- ・胴割米の発生を防ぐため、通風で2～3時間循環させてから乾燥し、毎時乾減率は0.8%以下とする。
- ・粳水分が低い場合(20%未満)や外気温が高い場合は、送風温度を通常より5℃程度低くし、毎時乾減率を0.6%以内に下げる。
- ・また、初期の粳水分が高い場合(25%以上)は、送風温度が高いと胴割米の発生が多くなるため、送風温度を低く設定する(45℃以下)。
- ・張込み量が少ない場合は、乾燥機の設定に従い、急激に乾燥が進まないように注意する。
- ・水分が17%以下になったら、一旦停止し、半日後に再乾燥するなどして、14.5～15.0%の水分に仕上げる。

【 青米混入割合による乾燥機の停止水分の目安 】

100粒中の青米粒数	停止水分の目安	乾燥機停止後の水分変化
0 ～ 5 粒	15.0 ～ 15.5 %	乾く(－0.5%)
6 ～ 10 粒	14.5 ～ 15.0 %	ほとんど変わらない
11 粒 以上	14.0 ～ 14.5 %	もどる(+0.5%)

4 粳摺り・調製

- ・肌ずれ米の発生防止のため、必ず常温まで冷ました後、粳摺りを行う。
- ・1.9 mmのふるい目を用い、適正流量を守り、確実に未熟粒を選別する。

◎熱中症の予防について

- ①熱を逃がしやすい衣服の着用や保冷材等により体を冷やす。
- ②水分補給や塩分補給、適度な休憩をこまめにとる。など予防に努める。

◎熱中症が疑われる場合の処置方法

- 1 体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断する。

- 2 応急処置を行う

- ・涼しい場所へ避難する。
- ・水をかけたり、扇いだりして体を冷やす。
- ・水分や塩分を補給する。

- 3 病院で手当てを受ける

- ・意識がない場合や自力で水が飲めない場合は、速やかに病院で手当を受ける。



【お問い合わせ先】

JA いみず野営農指導課 TEL:52-6805 高岡農林振興センター射水班 TEL:26-8478

JA いみず野ホームページ <http://www.ja-imizuno.or.jp>